

新羅に遣はさるる使人等、別れを悲しびて贈  
答し、また海路に情を働ましめて思ひを陳  
べ、并せて所に当たりて誦ふ古歌

三五七八番

武庫の浦の 入江の渚鳥 羽ぐくもる 君を離れ  
て 恋に死ぬべし

三五七九番

大舟に 妹乗るものに あらませば 羽ぐくみ持  
ちて 行かましものを

三五八〇番

君が行く 海辺の宿に 霧立たば 我が立ち嘆く  
息と知りませ

三五八一番

秋さらば 相見むものを なにしかも 霧に立つ  
べく 嘆きしまさむ